

## ☆平成30年度河内長野市地域ケア会議・各委員会の開催・開催予定

- ◆全体会議：2月21日(木) ◆ブルーカードシステム推進委員会：3月27日(水)
- ◆認知症施策検討委員会(認知症初期集中支援チーム検討委員会)：5月23日(水)、10月31日(水)、1月30日(水)。他にチーム員会議など
- ◆いきいきフェスタ検討委員会：4月4日(水)、6月13日(水)、8月1日(水)、10月16日(火)、11月27日(火)、1月22日(火)、3月12日(火)。いきいきフェスタ：2月10日(日)12～16時(於・キックス)
- ◆地域づくり検討委員会：12月3日(月)

## ☆河内長野市「れんけいカフェ」(於・河内長野市医師会地域連携室会議室)

<開所状況等> (偶数月の第4水曜日の定期開催・予約不要・費用無料)

- 第15回は12月26日(水)に開催され、36名の参加でした。河内長野警察署から高齢者の運転免許証自主返納、河内長野市薬剤師会から薬業連携についてPRがあり、アンケートの実施(下記)、各種行事のアナウンス、コピー版の「多職種のためのしゅうかつガイダンス」・「元なしゅうかつ(終活)マイノート」等の提示がありました。第16回は2月27日(水)、第17回は4月24日(水)、夫々開催します(会議は午後2時開始)。お気軽にお越し下さい。何かプレゼンしたいことがありましたら、事前に地域連携室迄ご連絡下さい。

## ☆河内長野市「れんけいカフェ」アンケート調査

- 第15回では、出席者のアンケートが行われるとともに、各種団体のご協力を得て、同じアンケートが実施されました。合計67名の方からの回答がありました。概要は次の通りです。

- ①現在の仕事に対する満足感は、ほとんどの方が「感じている・やや感じている」と回答をする一方で、「仕事で困っている」とした方は46%にのぼり、困難ケースの対応や調整の難しさなどが挙げられました。また、その要因として、体力、時間、キャパ、人材・人員(ない・少ない)、書類、事務(多い・煩雑)などのボキャブラリーが並びました。
- ②現在の仕事に関する連携度は、80%強の方が「出来ている・やや出来ている」と回答する中で、10%の方が「あまり出来ていない」との回答でした。この理由としては、医療職との連携や調整が難しい、病院・施設の情報に分からないなどが挙げられました。
- ③「現在の仕事の状況を漢字一文字に表す」との問いに関しては、「忙」が全体の約10%を占め、「難」と続き、「進」「慌」「連」「楽」「気」「学」が複数ありました。上記①の「困っている」にまつわる漢字が多いように思われました。
- ④多職種連携のポイントとしては、情報共有、方向性の一致、方針の統一、意思疎通、信頼関係、顔の見える関係づくり、報告連絡相談、思いやり、他職種への理解、人と心などが挙げられました。
- ⑤「れんけいカフェ」に対しては、「少し緊張する」との意見がままありました。他に、情報共有のICT化を求める意見などがありました。

## ☆河内長野市「プチれんけいカフェ」(於・河内長野市医師会地域連携室会議室)

<開催状況等> (略称：プチカフェ。不定期開催・要予約・費用無料)

- 第5回シリーズ第2日(回目)：2月27日(水)、上記カフェ終了後(午後3時頃)に開催します。テーマは「病院の地域連携担当の方との懇談 ～訪問看護師編」で、入退院支援などの意見交換等を予定しています。



☆認知症に関する医療・介護連携のための「**多職種連携研修会**」（於・ノバティホール）：参加 69 名

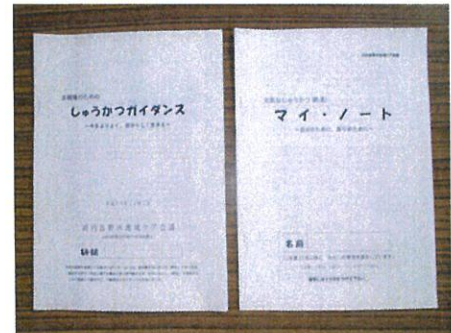
1月19日(土)に開催されました。辻 正純先生(東淀川区医師会副会長・認知症サポート医)の特別講演「東淀川区における認知症初期集中支援チームの活動」(3年半で 284 件支援など)、グループワーク、成年後見制度の説明、河内長野市おれんじチームの活動報告、地域連携室からの連絡などがありました。

辻先生からは、認知症初期集中支援チームに関して、「医師会の協力は必須」とする一方で、「同じメンバーが足繁く通うことで、心を開いてくれる」との見解披露があり、アウトリーチとコミュニケーションの重要性が強調されました。レジュメを希望の場合は、地域連携室迄ご連絡下さい。

☆「**終活**」あれこれ ～ACPの愛称は「**人生会議**」です!～

「**終活**」とは、人が人生の最期を迎えるにあたっての様々な準備や整理、人生の総括を意味します。最近では「**終活**」をプラス思考的に捉える流れがあり、中高年期に「自分を見つめ、今をよりよく、自分らしく生きる活動」のこととされ、未来の生き方を創造する活動と言われています。また、「高齢のため、年賀状を今年限りで辞退する」旨の年賀状を受け取った方も多いのではないのでしょうか。これを「**終活年賀状**」と言います。そういう意味で、まだまだ「**終活**」は断捨離的な感じが多いですね。

河内長野市では、超高齢社会において、市民と接する 機会の多い専門職がまず、市民に先立ち「**終活**」を理解することが 重要との観点から、今般独自の「多職種のためのしゅうかつガイダンス」と「元気なしゅうかつ(終活) マイ・ノート」(河内長野市版エンディングノート)を刊行しました。本書では、人生の最終段階における医療・ケアにおけるACP(アドバンス・ケア・プランニング=人生会議)や成年後見制度(法定後見・任意後見)等の必要性を謳い、かつ元気な内からの文書作成(エンディングノート、遺言書、任意後見契約書等)の有用性を強調しています。本書を希望の場合は、地域連携室迄ご連絡下さい。



☆**成年後見制度(法定後見・任意後見) 2**

成年後見制度には、法定後見(認知症等で判断能力が衰えた時)と**任意後見**(元気な時)の2つがあります。**任意後見**には、①見守り(定期的な連絡、訪問、面談=安否確認等)、②生前事務委任、③任意後見、④死後事務委任(②③④は代理権目録等に基づく)の各種契約があり、特に独居の方にお勧めです。昨今、現役のヘルパーさんが見守り契約を結び、行政書士の支援をお願いしているケースなどがあります。

法定後見	本人の状態	任意後見
注：本人住所地の家庭裁判所に、後見等開始を申立てます。申立てできる人は、配偶者、4親等内の親族、検察官等となっています。	元 気	関係公的機関：公証役場（公証人）
	↓	見守り契約
		生前事務委任契約
		任意後見契約
後見(保佐・補助)開始申立て ⇒法定後見の開始	判断能力↓	任意後見監督人選任申立て ⇒任意後見の開始
関係公的機関：家庭裁判所	↓	関係公的機関：家庭裁判所
後見(保佐・補助)の終了	死 亡	任意後見の終了 ⇒死後事務委任契約の開始

◎河内長野市医師会では、今般「認知症部会」を設置しました。認知症や成年後見のことなどで、気になることがありましたら、地域連携室迄ご連絡下さい。



☆「かわちながの主治医意見書連絡シート」 ～使っていますか？～

本連絡シートは、要介護認定の申請時における「主治医意見書」作成の一助、或いは申請のタイミングを知らせるものとして、ケアマネジャーはじめ医療介護福祉関係者(送付者)が、知っている情報や伝えたい事等を、本人・家族の同意の下、前もって主治医にFAX連絡するツールです(送付者の裁量の下で発行)。

また、多職種間のFAX連絡ツールとして、「かわちながの連携シート」・「かわちながの連携シート<サービス担当者会議用>」も発行されています。

3シートとも、河内長野市医師会ホームページ<地域連携室>に、(記入前の)ワード版がアップ中です(加工可能です)ので、ご活用下さい。

☆河内長野市ブルーカードシステム (病状急変時対応システム)

<1月31日現在>

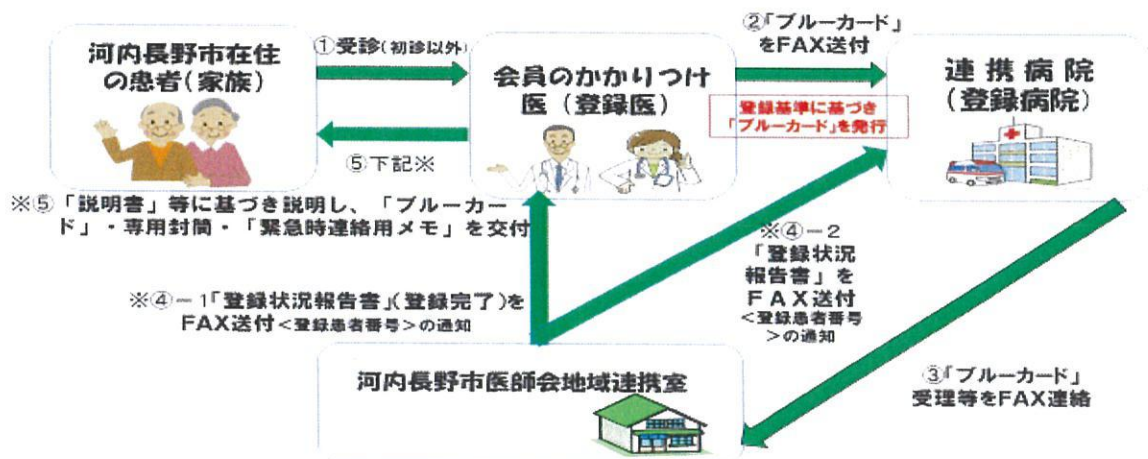
本システムは、緊急時患者受診(搬送)のための病状急変時対応システムで、事前に患者情報・キーパーソン等を登録し、急変時の受入れの連携病院(登録病院)を確保しておくものです。

「ブルーカード」は、かかりつけ医(登録医)が交付するもので、緊急時受診用のパスポートのような役割を果たします(情報提供書ではありません)。「ブルーカード」発行の対象はかかりつけの患者さんで、病状急変の可能性が高い河内長野市民となります。「ブルーカード」の発行費用は無料です。

「ブルーカード」は、患者さん宅の冷蔵庫のドアに貼り付けおくことになっています。

本システムは、平成28年11月1日から稼働していますが、現状は下記の通りになっています。なお、本システムについて、質問等がありましたら、地域連携室迄ご連絡下さい。

「ブルーカード」発行(新規)



<登録医療機関・登録医>33医療機関・39名の登録医(河内長野市医師会員)

<連携病院>榎本病院、さくら会病院(以上、大阪狭山市)、沢田病院、大阪南医療センター、岡記念病院、寺元記念病院(以上、河内長野市)の6病院

<協力病院>連携病院をバックアップする病院として、田辺脳神経外科病院(以上、藤井寺市)、大阪はびきの医療センター、城山病院(以上、羽曳野市)、近畿大学医学部附属病院(以上、大阪狭山市)、老寿サナトリウム(以上、河内長野市)の5病院

<ブルーカード発行>157件

<ブルーカード発動>30件(うち救急隊出動20件)

<患者さん状況>患者平均年齢:86.3歳(50~101歳)

キーパーソン:娘・嫁(50%弱)、息子(25%)、配偶者など



## ☆河内長野市医師会員によるブルーカードシステムに関するアンケート調査の実施

昨年12月～1月にかけて、更なる円滑な運用を目指すべく、開業医80名を対象とする調査を実施しました。本調査は、「ブルーカード」発行の有無等により、開業医を3つのグループ(登録医でブルーカードを書いたことがある先生、登録医でブルーカードを書いたことがない先生、登録医でない先生)に分けて行いました。

回答率は、75.0%(うち登録医の先生の回答率は100%)で、その有用性、安心度は確認されましたが、市民啓発の推進、「ブルーカード」記載内容の簡略化、整形外科領域における「ブルーカード」発行の促進、クラウドシステムの導入(システム改良)など、喫緊の課題も浮かび上がってきました。

### ◇医師のつぶやき 6: 石倉保彦先生(石倉医院・河内長野市緑ヶ丘中町8-6)

誰がする「多職種連携」?～言葉が先にあり、ある程度の体制が出来たときにはじめて、施策中は実際に動いていくと考えている。これは、即ち失敗を恐れるためである。しかし、我々の開業医の診療は、必ずしも成功するとは限らない。私が40数年前に始めた医薬分業は、成功の目算もなく、ただ単に薬の調剤は専門の薬局薬剤師に頼むの一点。その分身軽になり、色んな事にチャレンジできた。往診は勿論、学校保健(心臓検診等)、医師会活動…。薬剤師との連携がはじめての「多職種連携」であり、連携の基礎が出来たことがその後の「多職種連携」のスタートであったと思う。誰かの声を待つのではなく、自らの声、行動が「多職種連携」の道が開かれると考える。まず一步を。

## ☆「ヘルプマーク」 ～援助や配慮が必要な方のためのマークです!～



ヘルプマークは、それを見た人に、援助や配慮を必要としている方の支援を促すことを目的としています。裏面にはシールが貼られ、その方の必要な情報が書かれています。

ヘルプマークを見かけた時は、席の譲り、声掛け、避難誘導など思いやりのある行動を心掛けましょう。ヘルプマークは、市町村や保健所等で配布されています。

## ☆厚生労働省「本人にとってのよりよい暮らしガイド 一足先に認知症になった私たちからあなたへ」

本ガイドは、認知症と診断されても、「のびのびと、ゆる～く暮らそう」などをモットーに、様々な支援者や支援機関があることや認知症の方の前向きなコメント紹介などが記載されています。本ガイド希望の場合は、地域連携室迄ご連絡下さい。

## ☆大阪市認知症アプリ

本アプリは、家族や支援者の方にも活用できるようになっています。大阪市の社会資源の紹介、「認知症チェック」や資料提供があり、有用な情報となっています。このアプリは、iPhone、Android 搭載端末で利用することができ、「大阪市認知症アプリ」で検索の上、インストールして下さい。

## ☆月台後記(プラットホームこうき) ～たくさんの方が集まれる所を目指して～

超高齢社会の中、特に、認知症においては、専門医の先生だけではなく、かかりつけ医の先生も専門職も積極的に関わり、“市民のため”の地域貢献をしていく時代にさしかかってきました。そこで、地域包括ケアシステム熟成のためには、我々専門職の心意気が一層試されているといえます。

今後、何か載せてほしい記事等やカラー版の本紙をご希望の場合は、地域連携室迄ご連絡下さい。

監修

☆ 河内長野市地域ケア会議(事務局:いきいき高齢・福祉課)

発行

☆ 河内長野市医師会地域連携室(まちのれんけい室) <TEL 0721-54-1700・FAX 0721-54-1567>